最高学部

2012年度卒業勉強、卒業研究報告会は、2013年３月２日(土)午前９時～午後４時30分、自由学園記念講堂で行なわれました。①世界と日本の文化 ②環境と経済・社会 ③ライフスタイル ④人間形成と教育 ⑤自然の理解と創造 ⑥数理モデルとインターフェイスの、６つのテーマ別ごとに共通のテーマのもとグループで研究を進め、その成果を報告しました。

2012年度　卒業勉強　最高学部２年生[二年課程]

東日本大震災を考える－自由学園における最高学部の支援活動を持続可能にするためには－

久保田 悠　小林美奈　西島久璃子　山本千尋

2012年度　卒業研究　最高学部４年生[四年課程]

［世界と日本の文化］

1　人を動かす力

「若者論」論　岡本　杏
欲求の旅人トリックスター　木村 玄馬
マスメディアの「主観性」とそのあるべき受け取り方　白井 和佐
ナンバー２に必要な資質　廣瀬　真

2　Amenity－生活における快適性の考察－

「５ 10 ８」遊びから見る日本の笑い　市川めぐみ
漫才に見る「笑い」の理論－「意外性」「共感」「テンポ」－　鈴木 千尋
画像表現とリアリティ　脇 光寛
高齢者施設が高齢者に与える影響　田結荘 綾香

［環境と経済・社会］

3　地域と自由学園の持続可能な関係つくりに向けた行動変容に関する研究
－向山緑地としののめ寮の取り組みを通して－　木村 芙未子

［ライフスタイル］

4　マーケティングの視点から見た「自由学園のブランド戦略」

加藤 聡美　黒川 麻紗　米井 林太郎

自由学園のブランド戦略[加藤]　SI(スクールアイデンティティ)の拡充[黒川]
オリジナル商品の開発[米井]

［人間形成と教育］

5 自由学園らしい放課後の過ごし方の研究－JIYUアフタースクールのあり方について考える－

JIYUアフタースクールの役割－家庭とJIYUアフタースクールの関係に焦点を当てて－

高柳 紗登美　八釼 和希

JIYUアフタースクールにおける学生スタッフの役割　植田　駿
JIYUアフタースクールにおける美術合作ワークショップの指導法の考察

才川 天平　中筋 文子　西尾 衣澄

JIYUアフタースクールにおけるより良い間食の提案
－『自由学園の食の学び』を活かして－　浅野　隆
JIYUアフタースクールを通して自由学園の一貫教育を活性化させるシステムの考察
宮本 悠太

［自然の理解と創造］
6 **自然と人のかかわり－武蔵野の動植物、ニホンミツバチを中心に－**
鈴木 素子　平松 裕子　藤原 誠一郎

［数理モデルとインターフェイス］
7 **那須気象データの統計モデルによる体系化**
大森 興太郎　酒井 優行　高橋 礼穂　高山 大樹　宮加谷 祥子　矢野 真知子
8 **プロジェクトマネジメント手法の開発**
安次嶺 壮太　岸本航平　後藤健太　紫垣亜希　續木 光　中村朋央　原田椋平　溝越 眺

2012年度　学園特別実習

最高学部二年課程１・２年生、四年課程１・２年生

最高学部では１・２年生全員必修で８グループに分かれ、学園特別実習に取り組んでいます報告会は2013年３月９日(土)午前９時から11時、女子部・男子部の生徒も参加して、自由学園記念講堂で行なわれました。以下は報告のレジュメからの抜粋です(報告順)。

1 **樹木・庭園グループ**　担当教員：小田幸子　辻村 透
報告内容:より良い資源活用を目指す。現在、一番の問題となっている学園内の薪をどう活用するか。またその商品化の可能性。

2 **消費経済グループ**　担当教員：長島美穂子　柏原健一
報告内容:消費組合の利用者層拡大に向けて。学部生が使いづらく、利用者が女子部、男子部に限定されている現状の分析と考察。

3 **考古学グループ**　担当教員：奈良忠寿
報告内容:考古学の日常と学園キャンパスの縄文時代中期人口の考察。
一世帯に住んでいた人数の仮説をたて、発掘された竪穴式住居の数、大きさから当時の人口を導きだした。継続的に住んでいたと考えられ、約1000年間に1、268人。

4 **図書・記録グループ**　担当教員：竹内みさき　舩木由美　村上 民
報告内容:図書館の概要と図書グループについて／学園新聞のデータベース化の進捗状況と新たに導入した SaaS[サース Software as a Service]の利用とその効果。

5食グループ　　担当教員：深川卯子　百瀬登美子　尾沼陽子
報告内容:学部昼食の意識調査および改善／小麦粉の性質について
学部昼食の残り物[食べ残し ＋ 手のついていない残り]について、学部生へのアンケートの結果から原因の分析・考察と改善策

6農芸グループ　　担当教員：千原正子　室谷秀男
報告内容:「つなぐ、つながる」。各部とのつながりの強化－女子部・男子部生の農芸における学びのサポートを行なう一方、学部1年生と2年生との連携の良好化を軸に活動。昨年度からの継続であるガーデン化計画の取り組みの様子。

7施設管理グループ　　担当教員：神 明久　大柳陽一　清水孝和
報告内容:竹を利用した学園らしい棚製作／災害時における学生安否確認システムの考案
1年生は正門前農園における棚の設置の経緯と作業内容。2年生は災害時の学部生の登校状況を把握する手段としてカードリーダーを使用するシステムの開発とその経過。

8自然誌・環境グループ　担当教員：大塚ちか子　下野明子
報告内容:自由学園と向山緑地の各温度の比較
東久留米の地形と湧水に発する河川の立体地図を用い、立野川源流域向山緑地と自由学園内の水温の比較を通して、学園の自然環境保全について考察した。

2012年度　テーマ別グループ研究

最高学部3年生

2013年2月16日(土)午前8時50分から12時、自由学園記念講堂で報告会が行なわれました。

テーマ別グループ研究は、後期課程(3・4年次)の中心となるカリキュラムで、「世界と日本の文化」、「環境と経済・社会」、「ライフスタイル」、「人間形成と教育」、「自然の理解と創造」「数理モデルとインターフェイス」の6グループからなっています。

その特徴は、学問領域を越えた幅広い視野から研究を進め、グループで研究を行い、生活と研究の融合を目指すことにあります。お互いの個人研究を重ねあって[＝接点から面へ拡大]、共通テーマの核心に踏み込み、新たな視点や発展を生み出すというスタイルを取ります。

この報告会は3年生が一年間の成果を報告する場となります。

＜ライフスタイル＞

1衣と住を通して新しい形を考える

メンバー：蟻川文太郎　石川恵一　岡本真義　柄沢 凌　小金井萌花
佐藤 愼　原 健斗　プラダン・ブリハシュバティ　八木政人
指導教員：中村祐二　小田泰夫

ライフスタイルではこれからの生活を考えるために、人々の生活の変化の過程や異なる文化の生活などを研究している。

・報告内容　各メンバーの興味に基づいて個人研究の報告を行なったが、「生活とエネルギー」「生活と情報」「生活と装う」「生活と住まう」のグループ研究テーマとしてまとめることを視野に入れている。

＜数理モデルとインターフェイス＞

2 要求仕様のモデリングとプロトタイプングプロセスの実践

メンバー：池田駿介　鈴木 信　本岡 葵
指導教員：大柳陽一　濱中 翔　遠藤敏喜

植林地の間伐材の利用に関する研究と、幼児生活団通信グループの補助教材製作をテーマにプロトタイピングプロセスに適用し、研究を進めてきた。

・報告内容

間伐材を活かす椅子[池田、鈴木]　自由学園幼児生活団“れいすいまさつ”アニメーション化[本岡]

3 全国友の会「生活時間しらべ」の統計モデリング

メンバー：河上雄太　長 左絵
指導教員：遠藤敏喜　大柳陽一

全国友の会の生活時間調べは「“真の合理的生活”とは何かを考え、使われている時間の中身や質を見直す」という目的を持って、1959年から５年に一度、全会員を対象に実施されている。今回は、1999年から2009年の３回の生活時間しらべデータを用いて、会員の生活に羽仁もと子の思想がどのように反映されているかを検証した。

・報告内容

就労形態と子育て、家事、自由時間[河上]　高齢期のセルフケア、社会活動、余暇[長]

＜自然の理解と創造＞

4 武蔵野台地の動植物と作物に学ぶ

メンバー：梅津史雅　江村明悟　神谷哲男　須藤秀美　橋本奈々
丸山美麻　森 大樹　山口 諒
指導教員：神 明久　大塚ちか子　夏井正明　深川卯子　星川 熙

・報告内容

美味しい羊羹の条件[江村]　武蔵野台地作物 小麦について ①小麦粉－農林26号の可能性を探る－[丸山] ②柳久保小麦のパンへの利用[橋本]　お酒に見る発酵と新たな利用方法 ①米と小麦にみるアルコール発酵の違い[梅津] ②アルコール発酵の実験とそれを用いた地酒の開発とその提案[神谷]　魚の生息温度と血流[森]　武蔵野の野性植物 ～セキショウとサイハイランについて～[須藤、山口]

＜環境と経済・社会＞

5 木と人との繋がりを考える

メンバー：門倉拓郎　増川喜一
指導教員：杉原弘恭　小田幸子

森林を環境、経済、社会の３つの視点から考察することで、森林と市民のより強く繋がっていく方法を提案する。今回は木材・人工林の視点から分析を行なった。

・報告内容

自由学園と森林は、創立者が「労働・研究・静思」の場、学園の自給自足を助ける場として植林活動等を設けたことから、深い関係にあるので、日本の林業・学園植林はどのような特徴を持ち、施業方法を講じてきたのかなどを調査し問題を考察した。また、学園植林地の持続可能な活動につなげるべく、労働の安全を確保し、さらに市民関わり合いのツールとすることができる布修羅(ぬの しゅら／布製の滑り台)を活用した提案を行なった。

＜世界と日本の文化＞

6 無駄に感じた実体験 ～過去の想起と再評価～

メンバー：新井 薫　礒辺尚志　大沼香苗　神澤咲子　柴谷裕亮
津島稔季　松村岳史　山口 柊

指導教員：木村秀雄　大貫 隆　五十嵐清文　奈良忠寿　室永優子

アンケートによって、最高学部生が普段感じている「無駄な時間」についての具体例を集めその回答結果を「どのようなシチュエーションで無駄と感じるのか」という箇所に着目して、ＫＪ法でグループ化した。そこから「実体験は再評価することで経験値となり、価値基準や直感を育てることになるのではないか」という疑問が生じた。

・報告内容

フッサールの現象学における「想起」に対する学問的アプローチを行い、次にアンケートの集計結果の分析・考察を行なって、３つの思考パターンを創出し、最後に創出した思考パターンに「想起」を照らし合わせた。

＜人間形成と教育＞

7 学園セツルメントの歴史から見る自由学園の「預り教育」

メンバー：酒井理人　田中真人　仁科智子
指導教員：酒本絵梨子　咲花昭嗣

2012年度にJIYUアフタースクールが設立され、学童保育も実施されるようになった。この原点は1930年に開所された学園セツルメントの一環で開かれた託児所である。

この託児所から始まる自由学園の「預かり教育」の歴史を考察することで、自由学園が目指した学童保育が見えてくるのではないだろうか。

・報告内容

目白から南沢への移転後の農繁期託児所(のちに農閑期にも実施)・戦後の幼児グループの活動－子供会として活動・活動の担い手である卒業生と女子学部生自身の学び。

現在行なわれているJIYUアフタースクールも、単に子どもを預かる場としてだけでなく子どもの生活を良くすることを通して家庭や地域に貢献すること、また学生が社会へ働きかける場としていくことで、自由学園らしい「預かり教育」を行なう場になるのではないか